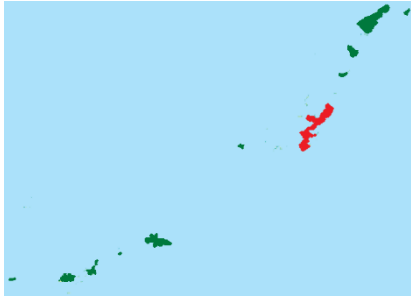




海上の道 (琉球列島の人々②)

8 月②のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2022 年 8 月 11 日(木)

中国王朝の貨幣は、殷(BC. 1600 年～BC. 1046 年)の時代に始まったとされている。その時代、貨幣経済は素材としての価値を持った宝貝を実物の貨幣として用いられていた。貨幣の“貨”をはじめとして、“財”、“買”、“貸”、“賣”など財を表す文字に“貝”の字が含まれている、これは貝が財貨の中心であったことを物語っている。

次の王朝周(BC. 11 世紀～BC. 256 年)になって、春秋時代(BC. 770 年～BC. 403 年)の末になると製鐵や製塩等の産業が発展し、貨幣は、“貝貨”に代わって青銅で作られた“銅貨”がその地位を占めるようになる。

始皇帝(BC. 221 年～BC. 210 年)は、国家統一事業の一環として銅貨による貨幣統一を行ない、貨幣は銅貨が主流となった。その後、中国の貨幣は、唐の時代に日本に伝わり、日本最初の鑄造貨幣“和同開珎”は、唐の開元通宝を模して鑄造されたと言われている。

大小合わせて 140 余の島々から成る琉球列島、この小さな島々に日本人の祖先が住むようになったのは、貝塚時代と言われている。

それは旧石器時代の一部であり、山下洞人(那覇市 32000 年前)、米原原人(八重山、30000 年前)、港川人(具志頭村、18000 年前)、ピンザアブ人(宮古島、18000 年前)などが有名である。これらの人々が琉球列島へ住みついたのは、日本列島が形成された 12000 年前を遡ること数千年ということになる。

BC. 5000～BC. 3300 年頃、中国浙江省、杭州湾南岸にある新石器時代初期の遺跡、河姆渡遺跡では豚や水牛を飼っていた。この遺跡は、1973 年土木工事中に発見され、既に BC. 5000 年には、水稻耕作が行われていたことが実証され、かなり完成度の高い各種の土器、農具など稲作の起源を証するものが発掘された。それはその年代の華北の畑作農耕に匹敵するものである。

殷の時代(BC. 1600 年～BC. 1046 年)に宝貝の採集(貨幣の供給)のために、琉球列島へ渡って来た人々は河姆渡の中国江南の人々であったと思われる。

何百年間に渡って宝貝の供給を行うために、琉球列島に家族とともに住み着いた。彼等は江南の人々であるから稲作技術を持ち、宝貝採集の片手間に離島の狭いところで稲作を行ったと考えられる。

日本史を読んでいて、「縄文時代」、「弥生時代」、「平安時代」などと本の章節の如く余りにも人為的に「箱庭」のように区切るのは、どうもなじめない。時代の前後も左右ももっと柔軟に連続、関連していると考えべきである。

参考：史記(殷本記)、陳舜臣(中国発掘物語、講談社)、柳田国男(海上の道、角川文庫)